

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年8月1日発行（毎月一回発行）第691号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

私の青春の出会い 中村 敏

エッセイ

山口勝政 著

『キリスト教とはなにか?』 榊田節夫

本・批評と紹介

森 清 著

自分らしい最期を生きる 若林一美

大貫 隆 著

真理は「ガラクタ」の中に 深田未来生

E.デ.フリース 著／登家勝也、西田隆義 訳

コンパクト聖書注解

ヤコブの手紙 久野 牧

藤山 修 著

イエスとの実存的出会い 繁國良明

関田寛雄 著

あなたはどこにいるのか 山内一郎

手話指導・原崎悦子／イラスト・石橋えり子
手話で歌おう! 塩山宗満

中澤秀一 著

グローブから介護へ 河 幹夫

R.D.ソレル 著／金田俊郎 訳

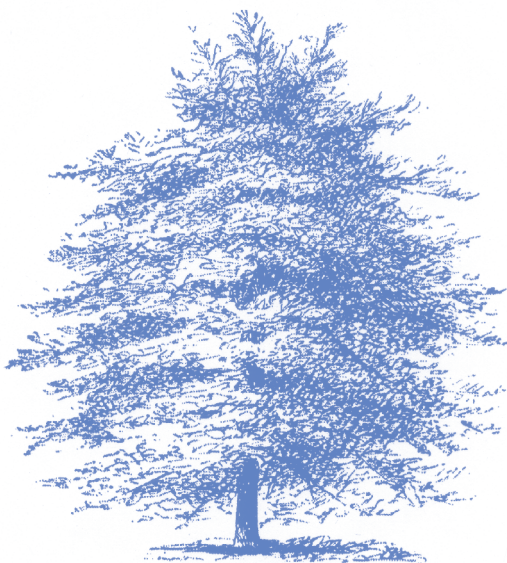
アッシジのフランチェスコと自然 手塚奈々子

本屋さんが選んだお勧めの本

既刊案内

書店案内

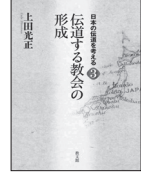
8 AUGUST
2015



日本の伝道を考へる3

伝道する教会の形成

上田光正



今こそ、百年先の教会を考えよう！ 40年以上上堅実な伝道・牧会をしてきた著者が贈る渾身の「日本伝道論」の全3巻。最終巻では、牧師と信徒の役割とともに、教会の一致や教団形成の問題を考える。

● A5判・292頁・本体1,900円

好評発売中！

第1巻 『日本人の宗教性とキリスト教』

● A5判・210頁・本体1,500円

第2巻 『和解の福音』

● A5判・202頁・本体1,500円

近藤勝彦

『伝道する教会の形成』なぜ、何を、いかに伝道するか

● 四六判・266頁・本体2,000円

書物の民

ユダヤ教における正典・意味・権威

M・ハルバートル

志田雅宏訳

四六判・344頁・本体3,500円

ユダヤ人にとって聖典とは何か？



500部限定発売

ギリシア語

新約聖書釈義事典

〔全巻セット縮刷版〕

H・バルツ／G・シユナイダー編
荒井献／H・J・マルクス監修

説教、聖書研究の準備に！



新約聖書本文に現れる全ギリシア語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化し、価格も半額に！

● A5判上製・3巻セット函入、本体63,000円
第I巻544頁、第II巻644頁、第III巻600頁

ユダヤ教の聖典は、テクストを中心とする共同体の形成にいかなる役割を果たしたのか。中世・近現代のユダヤ思想家による論考を参照しつつ、テクストの正典化と権威に関する諸問題を論じ、「書物の宗教」の伝統と実践における聖典の意味を明らかにする。



出会い・本・人

私の青春の出会い——中村 敏

私は、戦後新潟県でいわゆる団塊の世代の一人として生まれた。一六才の時に受洗し、その直後に牧師となる献身の決意をした。私の四年間の大学生活はちょうど学園紛争の真っただ中であり、学園の民主化運動こそ明日の日本の変革と未来につながると思われ、積極的に学生運動に取り組んでいった。そんな中で現実の諸課題に取り組んでいくためには、過去の歴史を学ぶ必要があるということを感じた。とにかく自分は一人の日本人キリスト者として、生涯日本の社会で生きていく。そのためには、もつと日本のキリスト教の歴史を知りたいと思い、手当たり次第本を読み漁った。

そんなある日、武田清子著『人間観の相剋』（弘文堂）を読み、「これだ！」という手ごたえを感じた。そこにはキリスト教的人間観と天皇制に基づく日本的人間観の相剋の歴史が見事に叙述されていた。この本との出会いを通して、研究者になるかならないかは別として、生涯かけて日本キリスト教史を研究していこうと決心した。その時から四五年間それをライフワークとして学び続け、その研究生活の中から何冊かの本を生み出すことができた。

大学卒業後東京で神学校生活を開始した一年目の秋に、私の生涯を方向づける大きな出会いを経験した。カルヴァン研究の権威者である渡辺信夫師との出会いである。「キリスト教綱要」の翻

訳者であり、いくつかの著作を通してその高名はよく知っており、その講演会に出席した。帰りの電車ではからずも同じ車両となり、胸をときめかせながら話しかけた。別れ際に今度ご自分の牧する東京告白教会で「綱要」の読書会をするので、来るようにとの誘いを受け、喜んで通い始めた。ほんの数人だけの学び会で、カルヴァン研究の権威者から直に教えていただくという、実に贅沢な時であった。先生はいつも学び会の前に、「主よ、私たちの学びが教会の徳を建てるものでありますように！」と祈られた。私はその祈りを通して、神学の学びというものは、自分のためのものではなく、教会の徳を建てるものであることを心に刻みつけることができた。

先生は、カルヴァン研究と戦争責任の追及をご自分の生涯の使命として生きてこられた。私もそれにならない、地方伝道と日本キリスト教史研究を使命としてここまで生きてきた。長年私はいくつもの神学校で教鞭を執ってきたが、学生たちにはしばしば語っている。自分を大きく超え、生涯をかけて目標となるような人や良書と出会い、自分を磨くようにと。

(なかむら・さとし 新潟聖書学院院長・聖書宣教会講師)

信仰を揺るぎないものにする説教

山口勝政著

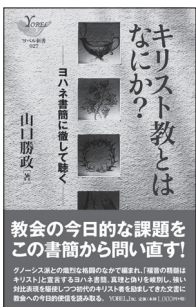
『キリスト教とはなにか?』

ヨハネ書簡に徹して聴く

真正な聖書観に立つ牧師によって、強い確信と深い慰めを与えてくれる、何と見事な講解説教が生み出されたことでしょうか。

著者山口勝政師は、一九九二年日本福音キリスト教会連合会設立以来、筆者の友人です。その学識の豊かさや真摯にみこばと向き合う堅実な奉仕の姿勢には絶えず敬意を覚えてきました。著者は殊に日本の保守的な地方での宣教の突破に重荷を持ち、数名の教職の方々とシンポジウム「地方伝道を考える——自立と連帯」の委員会を立ち上げ、過去約一五年間にほぼ毎年東北から中四国までどこかでシンポジウムを開催してこられました。筆者も委員のひとりに加えていただいています。

本書は茨城県の保守的な地域での著者自身の牧会する教会で日曜毎の礼拝で語られてきた二〇回の講解説教に一部手を入れたものです。著者が「キリスト教とは何か?」を明らかにするために「ヨハネ書簡に徹して聴く」と記すとおりまさに真剣にヨハネ書簡のことにばに精魂を傾けて取り組んだ結果生み出された説教です。一回の説教は七〇〇字前後で、毎週これだけの



榎田節夫

明解さと深さを兼ね備えたメッセージを愛する教会員と求道者に取り継いでこられた著者の真実さと有能さは衝撃的でさえあります。

著者はまず「はしがき」で自分の説教のスタンスを明示し、今日のキリスト教の危険な動向を察知し、それによって以下の二〇回のメッセージの特徴と主張と方向性を明らかにします。そして「本書簡の目的は信徒に信仰の確信を与えるために書かれたものです。」と中心テーマを明示します。とりわけケリントスに代表されるグノーシスの偽りの教えと真の福音の違いを際立たせ、それによって福音の真理を浮き彫りにしてくれます（これは第一説教以下本書全体を貫いています）。

本書の特徴は、著者による原語の熟練した運用、聖書箇所適切な引用、明晰な識別力による正確な揺るぎのない釈義がなされていることです。聖書のみこばが網の目のように繋がってメッセージ全体が躍動しています。その結果説教全体が確信に満ちています。著者が「あとがき」でボイス師の聖書講解書について語っておられることがそのまま本書に当てはまるよう

に思われます。「分りやすさ、その読みの深さ、現状分析の鋭さ、適用的確さ」です。さらにその迫力です。

またアウトラインが明解で区分の前後の繋がりがすっきりしており、説教の展開が分りやすく、読み進めていくうちに『そうか、そうだったのか』と納得がいき、気がつけば次々と前に進んでいる自分に気づき驚きです。私たちの心の深い必要に届き、また分りやすいのです。といっても安易に流れず、難解な箇所から逃げず、緻密に研究し何とか正確な釈義を見出しています（著者使用の註解書も世界的著名な学者たち——J・M・ボイスを主として用い、他にJ・W・R・ストット、F・F・ブルース、B・F・ウエスコット他を参照——によるものとがない）。この一見矛盾に見える箇所を七回のような角度から検討し、しっかりした釈義に到達します（第九説教）。「世」には異なった三つの意味の区別を示され納得させられます（第六説教）。こうしたことが数多く豊かに示されます。

日本の福音陣営の中から、世界の神学の危機的な動向をしつかり見張り、聖書の無誤性の確信に堅く立ち（『閉塞感からの脱却——日本宣教神学』山口勝政著、一六二—一七八頁参照）、

これだけの講解説教を生み出されたのは著者が、牧会四四年の長年の絶えない祈りと学びと苦闘の蓄積をしてこられたからでしょう。著者の愛読書がトーマス・ワトソン、C・H・スポルジョン、マーティン・ロイドジョーンズ、ジェームス・ボイス（殊に二二五年ほど同師の説教を基本に説教してこられた）、田中剛二であるところからその影響を受け、堅実さと厚みと鋭さを兼ね備えた滋味溢れる説教で聴衆への熱情と愛が伝わってきます。本書の出版を心から感謝します。

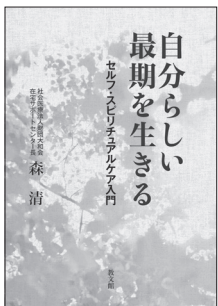
説教者たちや十字架の絵などの写真が適度に配置されており、字配りにも字の大小に適切に変化をつけ、余白も適当に取られており、大変読みやすくなっています。

自分の信仰にいまひとつ確信を持ってない方々は確かな確信の拠り所をいただけるでしょう。信仰の豊かな養いを望んでおられる方々は自分の信仰のあり方の再点検を迫られるでしょう。講解説教の具体的な見本と励ましを望む牧師・神学生の方々は御力と御霊の導きをもとめて更に真剣に説教の取り組みへの挑戦を受けることでしょう。ぜひ本書のご一読をお勧めします。

（くしだ・せつお）西日本宣教会院教師、高松コミュニティチャーター教師
※推薦のことばより（新書判・二四八頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）

臨床医が紹介する生と死のドラマと心の整理法
森 清著

自分らしい最期を生きる セルフ・スピリチュアルケア入門



若林一美

以前、著名なノンフィクション作家とお目にかかった折、その方は、「がん」しか書かないのだ、と言っていた。高齢化が進む中、認知症の問題が大きくなるだろうが、「ドラマ」がないから、というのがその理由であった。ベストセラー作家としては、「認知症」というテーマでは、メリハリも感動的な山場も書きにくいので、敬遠したのかもしれない。

しかし、私たちの老いや死は、作家の思惑とは別に、日常の些細な繰り返しで進行し、他人には、はかりしれない「ドラマ」が展開している。そのささやかな人の営みのなかにある日常、思い出（著者は、ものがたりと表現している）に立ち会い、あくまでも家族のなかでは、黒子として存在する。時には、二つの物質の化学反応を助ける触媒のような役割に徹しながら、死を看取る。家族のなかの別れ、人のいのちの移行に臨床医として立ち会い、そこからすくいあげたキラキラするような「生」の描写に、思わず胸が熱くなる。

そこに立ち会う人ならではの、厳しくも適切な表現が続いている。

だった。著者はじめ医療スタッフは、みかんを食べたいと単純に解釈する。しかし、みかんという言葉聞き、枕辺に集まった家族は「やっぱり、みかんですって」と大興奮する。その家族にとってみかんは、孫娘が生まれた時に植えた記念樹なのだ。家族の絆の証でもあるのだ。死の床で歓喜する家族の様子を見ながら、著者は、「家長」として、家族をつねに気遣い、大切に思っ生きてきた人の気骨を感じる。最期の言葉として、なんとふさわしいものか。その方の死後の、家族の平安と安堵に結びつくものであったと述懐する。

どんなに家族を愛していても、愛されていても、別れていく悲しみはその人固有のものとなる。著者は羽仁もと子の言葉を引く。

「靴をそろえて脱ぐ自由」

そしてこの言葉は、近代的ホスピスの創始者、シシリー・ソングラスの引用にもつながる。

「あなたはそのままで大切な存在です。あなたの人生の最期の時まで、大切な存在です」

靴をそろえて脱ぐことも含めて、「靴だけではありません。自分が身につけるべきものも、変えなければならぬ自分の一面を脱ぎ捨てることも、受け入れて、実行していく過程が自由と自律なのです」という著者の考えは、死に逝く人に対して向けられるだけでなく、自らに課した生き方そのものなので

「自分の家では、自分が主人です。自分の人生という「ものがたり」の中でも、自分が主人公です。そして自分の人生の責任は自分以外にはとることができません。たしかに病院では、治療の内容や日程、起床の時間から家族と会う時間帯まで、すべてが決められています。そのことに文句を言うことはできません、自分の思い通りにはなりません。そして、著者は続ける。朝寝坊しても、薬を飲まなくても、だれからも文句を言われることはないが、その責任は自分で引き受けなければならない。病がありながらも、自分自身がすこしでも快適に暮らせるか否かは自己責任と表裏の関係にある。医療者は、リスクも含めて説明をし、その上で、できるだけリスクを軽減するための努力を惜しまない、と記している。

様々な生き様を見せて、先に逝った人たち……。

大好きなお酒しか口にしなかった八十代の男性。最期に食べたい物は何かと聞かれ、親しい人にやっと聞き取れた言葉が「みかん」だったという九十歳の方のエピソードは心に響く。自らの時間が短いことを意識し、自宅にもどることを望んだ人

あろう。

本書は、著者が関わった多くの患者さんや家族、協働するスタッフとの出会いによって生まれたものだという。そのため、死の周辺にある様々な事柄が網羅されている。

人は何によって生きるのかを、立ち止まって振り返る——そのようなヒントが、「エンディング・ノート」「セルフ・スピリチュアル・ノート」のすすめにはこめられている。

日本の医療制度の問題点、在宅医療の費用や葬儀、ひとり暮らしの場合の死亡届のことに至るまでの具体的な記述もある。

(わかばやし・かずみ 立教女学院理事長)

(B6判・一八〇頁・本体二三〇〇円+税・教文館)

教育者として語りかける言葉
大貫 隆者

真理は「ガラクタ」の中に
自立する君へ



深田未来生

この時代、青年たちに受容可能な方法で思いを伝えることは簡単なことではない。特に伝統的な言語方法を用いている場合は丁寧な伝達の手段を探る必要がある。私たちが生きている世界は今や記号が支配しがちであり、簡潔で早い形と方法が日常的なコミュニケーションにすら深く浸透しているのである。一九三〇年代生まれの筆者の様な人間には、この傾向を的確に理解し、現代の特色を取り入れて自分のものとするのは極めて困難な作業である。それでも青年たちと出会い、彼らの声を聞くと同時に、こちらの思いをも伝えたいと願うと、何らかの意思伝達方法の変革や調整が求められるのである。

大貫隆氏は優れた聖書学者として知られてきた。東大からミューンヘン大学へと新約聖書学の学びを続け、母校東京大学で教鞭を長くとったことは広く知られている。私自身は『神の国とエゴイズム』（一九九三年）や『イエスという経験』（二〇〇三年）には学ぶもの、考えさせられた事柄が極めて多かった。説教を主として学んできた私にとって、説教の実践にプラスになる高いレベルの学問的研究の「資料」は貴重であり、重要であ

る。大貫氏が東大での働きを終えて自由学園最髙学部（大学部）で五年余にわたり専任教員として部長の責任までも担われたことは不思議ではない。東大と自由学園は異なった教育理念に立つ教育機関ではあるが、学生は現代の青年たちであり、大貫氏には世代の差がコミュニケーションの妨げとはならない関係形成力が備えられ、そのことが評価されての「移動」だったのであろう。

本著は大貫氏が主として自由学園で行った講演等が編集されたものである。講演といったが、なされた話は学内式典や礼拝でのものが多く、私は一種の説教集として読んだ。私はキリスト教主義学校での礼拝でなされる「お話」が聖書によって立つものである場合は、これを説教として理解しているからである。まず題がよい。書籍のタイトルは説教の場合と同様に、おざなりに軽くつけてはならない。「ガラクタ」などという言葉は、高尚な学問の世界ではあまり使われないかもしれないが日常生活的な表現である。副題の「自立する君へ」と続け、青年たちに聞いてほしい、さらに読んでもらいたいという著者の気持

ちを感じる。この辺からすでに私はこの本に好感を持ち、著者をお大貫さんと親しみを持って呼べる気持ちになったのである。

研究者として優れていても自分の学問的追求を学生たちのレベルで、彼らの知的、感覚的「受得力」の反応を見極めながら伝え、共に考えることが不得手な人もいるかもしれない。ことによるとパーソナリティの特色も関係するかもしれない。しかしまたこの課題をこなして学生との共同作業的学問のプロセスを推進できる人は青年たちの学業のみならず、人間形成に大きく寄与できる人といえる。

私は本著の第一部「自立する君へ」を読みながら、著者を成熟した学者、また教育者としての姿で捉える事が出来た。彼が用いる比喩もカラフルであり、わかりやすい。イエスの復活物語のように決して安易に理解を深めることが出来ないものでも大貫氏の「きれて、つながる」と題されるイラスト説教が主

張する「離れないと、結ばれない」といった言葉の中に一つの糸口を見出して新鮮な理解を味わった。

また新入生に語る「意味は隙間で生まれる」のように短い「語り」に学生たちは新鮮な洞察を与えられたに違いない。

第二部「神は苦しむ者の側に」は、学生をはじめとして広い聞き手に語られた六編によって構成されている。聖書に親しんできた人にとってはなじみ深い聖句や、「死」のように誰もが直面する人生の課題を、深みに触れながら語りかける言葉は読む者の魂の奥深くへ染み込んでゆく力を持っている。

しばらく手元に置いておきたい一冊を手にした嬉しさが心に満ちてゆく。

（ふかだ・みきお 同志社大学名誉教授）
（B6判・一八八頁・本体一九〇〇円＋税・教文館）

新刊

アンデルセンに聞く
聖書の言葉

田島靖則
Tadamasa Yoshinori

LITHON

アンデルセン に聞く 聖書の言葉

田島 靖則 著

●B6判並製 ●定価：700円＋税

デンマークはルーテル教会（ルター派プロテスタント教会）を国の宗教とする北歐四国のうちの一つであり、アンデルセンの作品には、ルター派の信仰理解や倫理観が反映されているのではないかと考え、完訳の全七巻をそろえて読み進んだ。その時の副産物として生まれたのが、本書に収めた礼拝説教である。（「まえがき」より）

ISBN978-4-86376-043-1

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

信仰に生きる者に生の方向性を示す

E・デ・フリース著
登家勝也、西田隆義訳

コンバクト聖書注解
ヤコブの手紙



久野 牧

本聖書注解シリーズは、本書も入れて既に二一巻が発刊されています。訳者の一人の登家勝也牧師は、その中の半数以上の翻訳に携われ、本シリーズに精通しておられます。もう一人の訳者である西田隆義氏は、故人となられました。『雅歌』の訳者です。とても歯切れの良い訳文です。

本書の「序論」は三六頁にわたり、全体の約五分の一を占めています。まず何よりもこの序論を丁寧に読まれることをお奨めします。それによって本書を貫く神学が何であるかが明らかになるだけでなく、『ヤコブの手紙』そのものを読むときの大きな助けになるに違いありません。この手紙を理解する上で大切なことは、手紙の執筆者が、この牧会的な手紙を書いた意図が何であるかを知ることです。著者の理解は明確です。「このような手紙の内容と記述はキリスト教総目録である必要はない」ということであろう。普遍的キリスト信仰は前提されている」(九頁)。それは「結び」において再び語られます。手紙の執筆者は「神について、キリスト論について、あるいは救済論つまり和解、義認、赦しについて」(一七二頁) 教えようとし

ているわけではありません。それらを信仰や神学の前提としてしっかりと理解した上で、個別の問題に向けて、この手紙を書いているのです。

ということとは、この手紙を読むことが求められている渦中の人々が、教会に実際に存在していたということになります。それはいかなる人々なのでしょう。この手紙は、ひとりの人の手による一通の統一ある書簡であると考えるとき、読者に関しても、統一ある像が浮かんでくることとなります。この手紙では、「どこでも同じ人たちが語りかけられている」(三五頁)のです。その人々とは、「彼の信仰告白は彼自身の生活と一致していない。彼の生活は自分の信仰告白と一致していない」(三五頁)というほかない人々です。そのような信仰には、場がなく、生活がなく、体がありません。そうした人々を著者は「霊知派」と呼んでいます。この「手紙の全体が霊知派的傾向のキリスト者たちに対する使徒的警告」(三九頁)としての性格を帯びているのです。その点を踏まえておくことが大事です。その人々の頭は信じ、口は告白しています。しかし人間にと

つてのもう一つの重要な生主体である身体は、彼が信じ告白しているとは異なる道を行っています。つまりその人の内に分裂があるのです。その人々の信仰は、知的理解のレベルにとどまり、信仰に体が伴っていない、信仰が現実には生かされていないのです。そうしたことに對する指摘や警告がこの手紙に鋭く記されていることに關して、訳者の登家牧師は次のように述べておられます。「霊知派と日本のキリスト者は違いますが、似たような頹落を指摘されているように思い、刺激的でした」(訳者あとがき)。評者もその点において、全く同感です。

ヤコブの手紙のルターによる(低い)評価は、良く知られています。それに関して著者は、二九頁以下において丁寧に神学に決して矛盾するものではないことを主張することによって、ルターの批判を乗り越えようとしています。手紙の執筆者は、律法をよく知っており、主イエスの教えの核心を弁えてお

り、パウロの中心的教えとされる(信仰義認)についても十分に理解しています。著者は、この手紙の多くの語句の背後に、パウロの言葉があることを指摘していますし、パウロの言葉への暗示があることも読み取っています。それによって、パウロとヤコブの内的つながりを指示しています。それゆえ、この手紙は「いわばパウロの注解書である」(八三頁)とさえ大胆に言うことができるのです。ヤコブの手紙は、信仰に生きる者に関する人間論の書であると指摘する本書に導かれながら、改めてこの手紙を読むとき、信仰に生きる「わたし」がいかにあるべきかの自己吟味が迫られるとともに、生の方向性が示されるでしょう。

(ひさの・のぞむ)日本キリスト教会函館相生教会牧師
(四六判・一八二頁・本体二四〇〇円+税・教文館)

コーラデコット賞受賞絵本作家が
あたたかな色彩で描く
旧約聖書ものがたり

新刊
絵本

ノアのはいぶね

ナニー・ホグロギアン 作 藤本朝巳 訳

神さまは人の悪に心を痛められ、ノアにはいぶねをつくり、すべてのいきものを一つがいにずつ入れるよう命じます。すると雨がふりはじめ……。す

A4判変型・32頁・1512円

この絵本をおすすめします

小塩 節

東京杉並・ひこばえ幼稚園園長

祈りのともしび

2000年の信仰者の祈りに学ぶ

平野克己 編

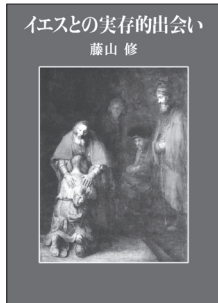
アッシジのフランチェスコ、ウエズレー、マザー・テレサなど、古代から現代へ受け渡される35名の祈り。祈りの名手から祈りの言葉を学ぶ。

四六判・112頁・1296円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyoku@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
http://bp-uccj.jp

青年たちの不安や苦悩に寄り添いながら、
福音の本質に迫る
藤山 修著

イエスとの実存的出会い



繁國良明

藤山先生が『イエスとの実存的出会い』という本を出版された。「難しい書名だな」というのが第一印象だった。先生が茨城キリスト教学園中学校・高等学校に在職中、図書館で『イエスとの実存的出会い』（ラディスラウス・ポロシユ著、中央出版社）という本に出会ったとある。本書の題名が彼の発案でなかったなら、「イエスとの究極的な出会い」、「イエスとの本質的な出会い」、「イエスとの絶対的な出会い」としてもよかった。本書の初出原稿は全て茨城キリスト教学園高等学校の研究紀要『新泉』にあることを思えば、私は既に読んでいて、むしろ、彼に是非出版するように勧める立場だった。

藤山先生と私の関係をお話すると、一九八九年当時、私は前出高校の校長で、どうしても聖書科教師が必要となり、「適当な人材がいらないか」と、キリスト教学校教育同盟（当時、神崎主事）に問い合わせた。まさにその時、藤山先生が同教育同盟に「聖書科教師を探している学校はないか」と、訪ねて来ていたのであった。そして、電話があったばかりの茨城キリスト教学園中学校・高等学校を藤山先生に取り次いで下さったのが始まりだった。面接の結果、彼は私たちが考えていた人物そのも

のだったと、ここに感じ取り、本校の聖書科の教員に採用させていただいた。神の不思議な導きを感じた。

さて、『イエスとの実存的出会い』には青年期の特徴として、自己の確立の問題、人間疎外の問題、愛の問題、苦難・病氣の問題、死の受容の問題が取り上げられている。それらを聖書の登場人物と関連させて説明しようとしたのが第一部である。

第一部の1 ザアカイの場合

ここでは、自己確立の問題を扱っている。「自己の確立」は真なる神に相對する時に成る。ザアカイはキリストとの出会いを通して、赦しを実感として受け止めることができ、神との関係を回復し、真の意味での「自己確立が成った」。

第一部の2 悪霊に取りつかれたゲラサ人の場合

人間疎外の問題を取り上げ、徹底的に疎外されたお方であるイエスに出会うことによって、疎外されたこの人物が自己を肯定することができた。それは、今、生かされているその所で生きて行くことを肯定することである。私たちはこの世界において疎外者である。聖書は、そのような私たちを「この世にあっての旅人、寄留者」であると表現している。

第一部の3 サマリアの女の場合

愛の問題を取り上げている。このサマリアの女は、イエスとの出会いによって、男女の愛への適切な理解を持つようになり、神に心から相對することができるようになった。まさしく悔い改めであり、生き方の根本的な転換が起こったと受け止めることができる。

第一部の4 中風の人の場合

苦難・病氣の問題を取り上げている。限界点を超えるような苦しみは、それを課している神への不信を生み出す。その結果、神を見失い、神の不在を経験することになる。そのとき、神心を閉ざすのか、あるいは、尚も神を仰ぐのかの分岐点に立たされる。神に心を閉ざしてしまうと、神の不在が決定的に成り、絶望が確立する。イエスは神への信頼の姿勢を最後まで貫き通された。イエスの十字架上の姿はどこまでも神を仰ぐ姿を示している。不条理な苦しみを受容する有様を説いている。

第一部の5 ニコデモの場合

死の受容の問題を扱っている。ニコデモは、自分の死後、神の「救い」にあずかるという信仰的な確信を持たず、死を受容できないでいた。夜、イエスを訪ねて来たニコデモに、「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」（ヨハネ三・三）と言われた。「神の国を見る」とか「神の国に入る」とは、神の「救い」に入れられると考えて良い。そうされるには、「新たに生まれる」という、根本的な変革が必要である。

イエスは「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生まれなければ、神の国にはいることはできない」（五節）。「水」は「バプテスマ（洗礼）」の水と意識されており、「霊」とは神の御業が働き、霊的に新しい者とされると解釈される。

第二部の1 思春期と宗教性

少女Tの場合と生徒Aの場合がある。Aは、茨城キリスト教学園中学校入学式に新人生代表として、入学の抱負を語った優秀な生徒であった。入学してからほどなく、ほんの些細なことがきっかけで不登校となり、摂食障害を発症し、自殺未遂を起こし、ある病院の思春期病棟に入院し、治療を受けることになった。そのような生徒Aと筆者との往復書簡の記録である。

第二部の2 八木重吉の信仰

初出原稿には八木重吉の経歴が細かく紹介されていたが、この本では省略されているようである。病と信仰の葛藤を描いた詩には重吉の信仰の確信が表わされていると解き明かしている。

第二部の3 ヨブ記注解私論

ヨブ記の理解についての、これまで見逃されて来た視点が指摘されている。神が、なぜあんなに高圧的にヨブに応答されたのか、それを理解できる視点が解き明かされている。

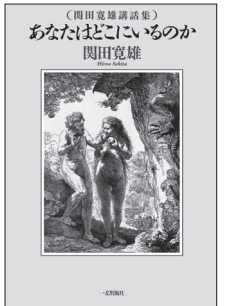
『イエスとの実存的出会い』とは、難しそうな書名だなと書いたが、今はこの書名が最もふさわしいと感じている。

（しげくに・よしあき 常陸太田キリストの教会代表役員）

（四六判・二三八頁・本体二六〇円＋税・教文館）

学生たちに希望と勇気を与えたメッセージ
 関田寛雄著

あなたはどこにいるのか 関田寛雄講話集



山内一郎

本書は、青山学院大学第二部関田アドヴァイザーグループの自主的な企画として一九六八年に出版されたものの再刊である。五月の連休に入り、腰を据えてページを繙くほどに、半世紀近く前に語られ、書き残されたオリジナル版の内容が「今なお」、否「今こそ」傾聴されるべきメッセージ性の高い必読書であることを痛感した。

著者は、米国学から帰国し、一九六四年から青山学院大学文学部神学科教員として第二部の宗教主任を兼務し、経済的事情などで「夜」学ばざるをえない苦学生たちの内面生活に寄り添い（イエスに倣う「師弟同行」）、研究室に三々五々訪ねて来る学生たち、何かを求めて止まない彼らと、短い時間に適したパスカルの『パンセ』を一所懸命に読み、語り合ったなかで互いが成長した真率な証しが本書であり、その意味でこれは「名実ともに学生諸君自身の創造である」と言われる（「初版への序」）。

内容全体は、「学ぶということ」「生きるということ」を主題に掲げる学生たちのための講話、そして「説教」として語られ

た聖書講解、日本基督教団桜木教会週報から精選された「一週一言」、付録として（一）「夜、学ぶ人々——第一部廃止を惜しむ」、（二）「教会は心傷ついた人々への絆の確立を」、（三）「この最後の者にも」、以上三編が加わる。

著者が大学チャプレンとして新入生たちに語りかける青山学院「キリスト教主義」の理念は明快である。キリスト教の中心は永遠のロゴス（真理）の歴史における受肉であり、時代の問題と対決することによってその真理性を具現するゆえに、青山学院大学は常に真の意味における「プロテスト」スクールであり（二五、二九頁）、そこから青山学院で主体的に「学ぶこと」の特権と責任が明らかとなる。

しかし一九六八年以後、大学紛争が激化するなかでアドヴァイザーグループのやむなき解散、そして神学科の廃科、著者の背負った艱難・辛勞は察して余りあるが（「まえがき」参照）、学生たちは「青竹の会」なる名称で読書会を続け、著者自身も厳しい試練の渦中であって「生きるということ」の意味を学生たちに問いつづけ、彼らに新しく生きる希望と勇気を与えたそ

のメッセージがここに甦る。

本書全巻を貫流して神のことば（ロゴス）としての聖書一巻がメッセージすべての基底を成し、著者がウエスレイアンとしてバイブル「一書の人」であることが疑われない。しかし文中にはルター、カルヴァン、バルト、テイリツヒ、ボンヘッフアーなど神学者をはじめ、パスカル、キェルケゴール、ドストエフスキー、ブーバー、サルトル、エリクソン、フランクル、シモーヌ・ヴェイユ、そして魯迅、親鸞、石川啄木、太宰治、高村光太郎、漱石、芥川、武者小路、内村鑑三、矢内原忠雄、三谷隆正、八木重吉ほか古今東西あらゆる領域の優れた先達からの引証がみられる。著者は稀にみる読書家であり、その関心領域は実に広範囲におよぶが、その実、関田師にとっては万巻の書が、結局は聖書一巻をよりよく理解するための肥やしになり、「あなたはどこにいるのか」という深みの次元からの問いかけに応えるために役立てられているのである。

付録（三）「この最後の者にも」はNHKラジオ「宗教の時間」

よりの再録であるが、恩師矢内正一先生（元関西学院中学位長）との出会いなど、著者のこれまで歩んだ道を振り返る貴重な証言である。すぐれた神学者、教育者としての関田師の生き方は、同時に教会のミニスターとして現在にいたるまで平和、人権、環境問題など、今の時代に逆挑戦を闘うわが国キリスト教界の良心的支柱、私たちにとってかけがえのない模範である。

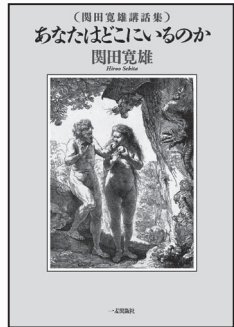
（やまうち・いちろう 関西学院大学名誉教授）
 （四六判・二一六頁・本体三〇〇円＋税・一麦出版社）



あなたはどこに いるのか

（関田寛雄講話集）

関田寛雄
 Hiroo Sekita



苦学する青年たちに寄り添い、
 その魂を揺さぶった言葉！

その言葉に、
 困難や苦悩のなかで
 生きる勇気を得た——。

四六判
 定価【本体 2,200 + 税】円
 ISBN978-4-86325-076-5



株式会社 一麦出版社
 札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
 TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
 携帯 mobile.ichibaku.co.jp

聞こえない人たちと一緒に歌いたい
手話指導・原崎悦子
イラスト・石橋えり子

おとなも子どもも一緒にさんび
手話で歌おう！



塩山宗満

本書を手にして、まずよく歌っていた、懐かしい子どもさんびかを、歌いながら手を動かしてみる。『子どもさんびか改訂版』5「子どもをまねく」。よし、これならすぐに憶えられる、と思っただけで、どうも指文字のところ引つかかる。指文字はなかなか身につかないし、よく考えてから表すので、どうしても遅れてしまつて、リズムに乗れない。ほかの所はわかりやすい表現である。次は54「ガリラヤのかぜかおるおかで」を歌つてみる。ゆつたりした心にしみる賛美歌である。ちよつと首をかしげたり、不安そうな顔をしたらしいイラストが印象的である。3節まである歌詞を見開きの二ページにまとめてあるのはありがたい。こんどは、よく知らない歌に挑戦。85「イエスのになったじゅうじかは」。まず賛美歌を歌い込んでから、手を動かしていく。短い曲だが音の変化が独特なので、かなりの努力が必要で、歌いながら手を動かすところまでいくのが難しかった。もう一つ、6「イエスさまのことばが」は曲も憶えやすいし、手も動かしやすい。すぐに憶えてしまった。

このように数曲手を動かしながら歌つてみると、いくつかの

ここで、手話についてちよつとおさらいをしてみよう。手話とは、手指の動きや表情などを使って概念や意志を視覚的に伝達する視覚言語で、独自の語彙や文法体系をもっている一つの言語である。生まれつき聞こえない、聞こえにくい聴覚障害者にとっては、手話が一番ふさわしいコミュニケーション方法である。ちなみに、日本ろう福音協会では、自分たちの言語で聖書を読みたいとの願いのもと、日本聖書協会や有志の支援を受けて、「手話訳聖書」の製作に取り組んでいる。

翻つて、教会は聴覚障害者をどのように受け入れてきたらうか。教会を訪れる聴覚障害者にとって、聖書を読む箇所がわからない、説教の内容がわからない、賛美歌を歌えないなど、礼拝に参加するだけでも大きなハードルがあり、不安や戸惑いも大きいものである。聴覚障害者とのコミュニケーションは、いくつかの方法がある。手話、筆談（紙やボードに書く）、口話（はつきりした口型で話す）、身振りなどが挙げられる。ホ

ことに気がつく。

- 賛美のリズムと手を動かすことを同期させるのがなかなか上手いかないが、この賛美歌集は、その点よく表現されている。
- 手話は動きを持った言語なので、それを二次元で表現するのはかなり工夫がいる。そこを矢印と解説でうまくまとめている。
- 手話は手を動かすだけでなく、顔の表情も大切だといわれているが、その点も考慮して描かれている。
- 手話で表現するということは翻訳をすることであり、歌詞をどのような言葉で表すかはかなりの経験と知識が必要である。本書は良い選択がされている。

著者の原崎悦子氏は長年アバコで手話教室の講師をしてきたほか、キリスト教の諸集会で手話通訳として活躍をしてこられた。その現場での経験とキリスト教手話への深い理解がこの本の表現を作り上げている。また、石橋えり子氏のイラストもいきいきとしており、この本の価値を高めている。

ワイトボードなどを備え付けたり、プロジェクターなどで賛美歌、聖書などを示したりすることも有効である。手話通訳者がいればベストだが、通訳者の養成には地域の手話講座からはじめて一通りのレベルになるまでに数年かかる。それと平行してキリスト教手話を学んでいかなければならない。教会や教団で手話通訳者を育てることを本気で考えてほしい。わが日本バプテスト連盟所属の三百二十ほどの教会・伝道所でも礼拝に手話通訳が付けられているのは数教会に過ぎない。

手話は聞こえない人たちの言語である。だから、このさんびか集も聞こえない人たちと一緒に歌いたい。この本が、一人でも多くの子どもたち、大人たちに用いられ、聞こえない人たちの橋渡しができるように、活用しされていくことを期待する。（おやま・むねみつ）日本バプテスト連盟豊原バプテスト教会牧師、連盟「障害」者教会委員会

（B5判・四〇頁・本体一〇〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



主の祈り

説教と黙想

及川 信
Shin Oikawa



福音に生きるとは
どういうことなのか？
主イエスの
教えの中核である
「主の祈り」とおして、
全知全能の神を
「我らの父」と呼べる
幸いを語る。

四六判

定価【本体 1,800 + 税】円
ISBN978-4-86325-074-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「実践家が社会福祉を形成していく素敵な時代が到来した！」
中澤秀一 著

グローブから介護へ 元巨人軍選手からの転身



河 幹夫

「舞台の上」での専門職の判断に委ねられるようになる。

社会福祉の「制度」は「実践」のためにある。我が国では戦後、福祉国家論の誤読から、社会福祉は「国家が行うもの」と理解され、介護サービスなどの福祉サービスも「国家に命令された人」の単純労働と理解されていた。この結果、福祉施設に勤める人に対し「偉いわねえ」という不思議な言葉が投げ掛けられ続けてきた。

このような福祉実践の世界は、第一に一九八七年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」という【国家資格】の創設、第二に二〇〇〇年の介護保険制度の実施、第三に併せて形成された「社会福祉の基礎構造改革」（いわゆる「措置」から「契約」へ）によって大きく変わっていく。「福祉サービス」は医療サービスと並ぶヒューマンサービスになり、「専門性を有する人間が協働し、目の前の人間（要介護者や患者）に対して、必要なサービスを行う」「仕事」になっていく。その公共性を踏まえ、介護保険制度や医療保険制度など、国民の負担（保険料と税金）による支援制度（舞台装置）が設けられる。この支援は措置制度のように「国の命令」を根拠に行われるものではなく、

前置きが長くなったが、本書「グローブから介護へ」という著者の歩みの背景に、社会福祉の「制度と実践」に関し、大きな進展があったことを理解しておいていただくと本書の素敵さが際立つように思う。また先に述べた「三つの社会福祉の改革」に携わった者として、中澤秀一さんの登場を有り難く思う。本書の著者、中澤秀一さんは、一九五九年生まれ。兵庫の三田高校を卒業し、あの青田昇さんにスカウトされ、内野手として巨人軍に入ったが、三年で「自由契約」。その後、いくつかの仕事を経験したがうまくいかず、人に紹介されて「介護」がら「いはできるだろう」と思って訪問入浴を行う会社や、特別養護老人ホームを経営する社会福祉法人の職員になる。その間に同じ職場のクリスチャンの女性と（洗礼を受けて）結婚。その後、介護を教える教員になる道を歩まれ、大学や大学院での学びをされて二〇〇九年八月から東京基督教大学（キリスト教福祉学専攻）、二〇一四年から教授。ちなみに同学科では稲垣久和、

佐々木 炎、井上貴詞などの素敵な先生方が教鞭をとっている。

本書の面白さは、中澤先生の人生航路が何ものかに導かれたかのように、プロ野球の世界から、介護そして介護教員の世界に至っておられること。そして著者がそれを淡々と語り、その謙虚さが類い稀なユーモア（本人はひよっとして意識しておられないのかもしれない）を生み出している。

本書は二部構成で、第一部が「元巨人軍選手から介護への転身」、第二部が「介護福祉『専門職』を目指す方のために」とされており、第一部が著者の航路、第二部が介護福祉の講義録であるが、それぞれに豊かな内容が描き出され、しらすしらすのうちに、介護の仕事の素晴らしさが伝えられていく。そして全てを支配しておられる神様の導きの確かさ。

介護の「仕事」の世界は、家族介護の世界やボランティアの世界に隣接する。この問題について本書の第二部における解き

明かしは実に適切で見事である。それは決して家族介護やボランティアを否定するものではないが、それらを超えて「専門職の仕事」の大切さを分かり易く語る。今、介護を学んでいる多くの学生たちへの大きな励みになるであろう。冒頭に書かせていただいた言葉の通り、著者、中澤秀一さんのような教師こそが、実践家として介護サービスの次の世代の担い手を生み出し、制度を形成されていくことを確信する。

「実践家が社会福祉を形成していく」素敵な時代が到来したことを心から感謝したい。そして多くのノンクリスチャンとの協働の中で、必要な介護サービスが提供され、静かに神様の栄光が表わされていくことを祈り求めている。

（かわ・みきお）神奈川県立保健福祉大学教授、元厚生労働省・社会福祉担当参事官、日本同盟基督教団和泉福音教会会員

（新書判・二三四頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）

東京基督教大学教授

中澤秀一 著

* 待望の初著書！

グローブから
介護へ

グローブから 介護へ 元巨人軍選手からの転身

ユーモラス・有益・謙虚な告白 赤江弘之師（日本同盟基督教団和泉福音教会参事官）の推薦。プロ野球選手になるまでの物語。プロ野球選手としての挫折。結婚と老人ホームの世界への転身。介護福祉士養成校教員への道。大学教員へのステップアップの苦闘の学び。どの項目もユーモラスで有益な文章が綴られて読者を魅了する。
●ヨベル新書029・二三四頁・一、〇〇〇円＋税

大和昌平著（東京基督教大学教授）

追憶と名言による キリスト教入門

吉川直美師・評（シオンの群教会教師、聖安学校教師）

…実に色とりどりのことばの横糸が織り込まれている。織りなす糸は一篇一篇違えども、最後には必ず創造主が、イエスがすくと立ち現れてくる。…キリスト教は西欧の宗教だと思っている人にも、キリストに従おうと幼少期を切り捨てて来た人にも、幼子としてくぐるキリスト教への入り口として誇りを持って本書をお勧めしたい。（『本のひろば』評より）
●ヨベル新書 013・152頁・900円＋税

牧師の読み解く般若心経

新書版への改訂編集

大和昌平著 ● 近日発売予定

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp

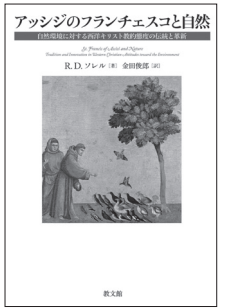
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

* 自費出版の専門出版社* 資料・星

エコロジーをめぐる中世の聖人の現代的意義を論じる
R・D・ソレル著
金田俊郎訳

アッシジのフランチェスコと自然

自然環境に対する
西洋キリスト教的態度の伝統と革新



手塚奈々子

アッシジのフランチェスコ（一一八二—一二二六）は、環境破壊が進む社会の中で西洋キリスト教文明の中からその見直しとして、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世により一九七九年に「環境保護運動の保護の聖人」とされた。本書は、現代エコロジスト達に用いられる「フランチェスコ」を正確にまず歴史的に位置づけ、その上で現代社会に貢献する諸点を探っている研究書である。訳者が三二七—三二八頁に述べておられるが、本書は、著者ソレルが博士号を取得した論文の改訂本であり、Oxford University Pressから一九八八年に出版されたものである。

本書の構成は、著者の「謝辞」、序論「中世的自然観についての神話」、第一章「禁欲の伝統と初期フランシスコ会の見解」、第二章「フランチェスコの創造の解釈における伝統的要素」、第三章「フランチェスコの創造物への態度における伝統からの超越性とその最初の主要な影響——鳥への説教」、第四章「創造物へのフランチェスコの特別な関心」、第五章「兄弟なる太陽の讃歌」における伝統とその影響」、第六章「兄弟なる太陽の讃歌」における伝統とその影響」、第六章「兄弟なる太陽の讃歌」における伝統とその影響」。

本書はフランチェスコの生きた状況とその時代背景からその伝統と革新の統合の意味を考察し、その上で現代社会に訴え得る諸点を指摘しており、環境問題を論じる際に、必読の書である。ところでフランチェスコの平和思想により、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九八六年アッシジで世界初の諸宗教間対話の場を作り共に平和のために祈り、京都・母尾にある高山寺とイタリアのアッシジの聖フランチェスコ大聖堂との間に世界初の兄弟関係を結んだ（詳細は、河合隼雄／ヨゼフ・ピタウ著『聖地アッシジの対話——聖フランチェスコと明恵上人』〔藤原書店、二〇〇五年〕参照）。その証として、高山寺は「樹上坐禅像」（成忍作・明恵上人が鳥のいる樹上で坐禅）のコピーをフランチェスコ大聖堂に贈り、フランチェスコ大聖堂は「小鳥への説教」（ジオット作・フランチェスコが鳥達に説教）のフレスコ画のコピーを高山寺に贈った。日本で今後仏教とキリスト教で環境問題の捉え方の違いを論じるだろう。その際にも、

る太陽の讃歌」の意味をめぐる論争」、第七章「兄弟なる太陽の讃歌」——創造についてのフランチェスコの理想像」、第八章「フランチェスコ——事実と遺産」、附論Ⅰ「フランチェスコとカタリ派」、附論Ⅱ「初期フランシスコ会資料の分析」、附論Ⅲ「初期資料における鳥への説教」そして詳細な「訳者による解説」「訳者あとがき」となっている。

本書の特徴は、創造されたものの価値について、フランチェスコによる伝統と革新の統合（特にシトー会との関連の指摘は興味深い）、フランチェスコとその会員に見られる祈りの隠遁性と使徒的福音主義的運動の統合（当時の使徒的福音主義的運動の中でフランチェスコの改革が教会の内部に留まったということからも重要である）、そしてフランチェスコの被造物を尊重する態度——それは人間の有用性によらないでも創造されたもの自体として尊敬を持つ——を論じたことにある。

現在、エコロジーを論じる際、神学、宗教学、社会学、環境学等においてフランチェスコの言葉が引き合いに出されるが、その正確な意味を顧みずに濫用される危険がしばしばある中で、

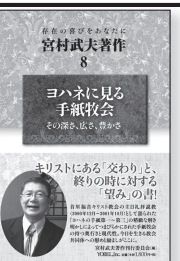
フランチェスコ研究としてこの度訳され出版された本書は必読の書である。

最後に、翻訳について、訳者自身が三二九頁で述べておられるが第一章の古代キリスト教の詩歌は原典参照の必要がある。キアラは日本ではクララで通じている。創造物という訳語が連なるが、本書の意図から察した。環境問題をめぐって、「フランチェスコ」を歴史的な状況からおさえその現代的意義まで本格的に論じた研究書の翻訳で、訳者の御尽力は多大である。

（てづか・ななこ 明道学院大学教授）
（四六判・三三四頁・本体二八〇〇円＋税・教文館）

宮村武夫著作 8 ヨハネに見る手紙牧会

その深さ、広さ、豊かさ
キリストにある交わりと、
終わりの時に対する「望み」の書！



ヨハネにある「交わりと、
終わりの時に対する「望み」の書」
未発表「ヨハネ書簡」説教。副題の示す「深さ、広さ、
豊かさ」を味わいある内容で提供。聖書の事実性がどう
いうことなのか、聖書の事実の宣言、さらなる厳しさや
牧会という実存的な「戦い」、真剣勝負に挑むべき説教
のあり方がにじみ出てくる。エッセイは、吉枝隆邦師、
遠藤勝信師。●四六判上製・三三四頁・一、八〇〇円＋税

ヨベルの新刊ご案内

日本聖書神学校キリスト教研究所「編」
いきいきとした礼拝を目指した資料の数々！
聖霊降臨日から始まる半年あま
りの「教会の時」教会ではさま
ざまな主題を持つ行事が季節ご
とに行われる。人びとの生活サ
イクルに深く根ざした、それぞ
れの行事に対応した礼拝資料集。
既刊「礼拝の詞1 待降節から
三位一体主日まで」
●各1200円＋税

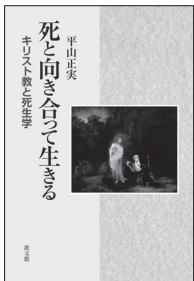


礼拝の詞2 教会の時
好評発売中！
株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

本屋さんを選んだ お勧めの本

『死と向き合って 生きる』

平山正実著



1,500円+税
教文館

名古屋聖文舎 伊奈均志

フランスの二十世紀を代表する現代美術家マルセル・デュシャンの墓碑銘には、「死ぬのはいつも他人」と刻まれているそうです。同じくフランスのラ・ロシュフォーコーの箴言にも「太陽も死もじつとみつめることができない」と記されています。誰にでも必ず訪れるであろう「死」の諸相を理解し向き合うことがいかに困難かを言い表したアイロニーに満ちた名言です。既に他界された精神科医の平山正実先生の遺稿「キリスト教と死生学——未完の完」が収録された本書は、古今東西の「死生観」についての歴史学的、宗教的、生物学的な考察にはじまり、臨床の現場からのケーススタディ、葬儀への提言、自死の問題、晩年のキリスト者の姿など「死と向き合う」先生の透徹な、また優しさに満ちたまなごしを私たちに残してくれました。牧会者と言わずキリスト者必読の書として推薦いたします。

松山キリスト教書店 平岡光司

『虹の約束』

小島誠志著



1,900円+税
教文館

今回のお勧めの本は、著者が日本基督教団松山番町教会で三十年余り語ったメッセージの中から、退任される前の数年と、他教会における記念礼拝で語られた説教集です。聖書は創世記・ヨハネによる福音書・第一コリント・第二コリント。またクリスマス説教・イースター説教・ペンテコステ説教の全二七編を収録しています。

「キリストが十字架にかかられた時に、全地は真っ暗になったと福音書に記されています……罪が勝利したかに見えた暗闇の中から、神の子であるイエス・キリストは、その罪を背負い、自ら犠牲を払って光を創造されたのです。……だから私たちは光の子どもです。赦されて、光の中を生かされている。十字架もまた神の創造の御業なのであります」(一六一―一七頁)

「説教者は水を運び続けます。このつたない水を最上のぶどう酒に変えてくださる方を信じて。一回一回の礼拝において、会衆も説教者も復活の主のいますあのカナの喜びの宴に招かれていますと信じています」(二五二頁)

現在、いろいろな事が起きています。地震・戦争・事件。

『日本史における キリスト教 宣教』

黒川知文著



3,000円+税
教文館

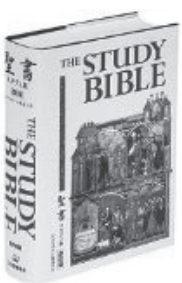
地方の教会を訪ねる本屋さんの一入として、その地域の教会のルーツに思いを巡らすことは楽しいことです。本書の表紙には、ザビエル、ニコライ、ヘボン、賀川と日本のキリスト教の伝来を担った四名の絵と写真が載っています。宣教師の足跡がしるされて以来、「聖書」の和訳と出版、「讚美歌」の歌集としての出版、そして伝道用の「トラクト」が出版されていきました。私たちの教会の歴史は、その時から「福音」をあまねく日本に宣べ伝えることから始まりました。自らの所属する教会もその歩みの中で育まれていきました。そんな歴史の一端を垣間見ることのできる本書を、是非お読みいただけたらと思います。

名古屋聖文舎

〒464-0850 名古屋市千種区今池5-28-4
TEL: 052-741-2416
FAX: 052-733-2648
E-Mail: nagoya-seibunsha@nifty.com
URL: <http://homepage3.nifty.com/seibunsha/>

ざわめいたこの世の中で、私たちは生きています。今、私たちは何を求めて生きればよいのか、神の心を知る一冊になると思います。

『聖書スタディ版 改訂版』



8,400円+税
日本聖書協会

聖書しか持っていない、でも、もつと詳しく聖書のことを知りたいという方や、聖書をなかなか読み進められないという方に、お勧めしています。今回、旧新約六六巻の概説を全面改訂しました。

神学や聖書学の基本的な意味を、わかり易く解説しています。判型は、手ごろなサイズのA5判で、八年ぶりの登場です。巻末付録には、用語解説・人名索引・聖書歴史年表・地図などが収録され、大変充実しております。是非一冊お買い求めください。

松山キリスト教書店

〒790-0804 松山市中一萬町1-23
TEL: 089-921-5519
FAX: 089-921-5413
E-Mail: sksch@dokidoki.ne.jp

既刊案内 (2015年4月～5月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
上 田 光 正	日本の伝道を考える1 日本人の宗教性とキリスト教	A 5	210	1,500	教 文 館	4/20
E.デ・フリース著 登家勝也、西田隆義訳	コンパクト聖書注解 ヤコブの手紙	四六	182	2,400	〃	4/30
原崎悦子 手話指導 石橋えり子 イラスト	手話で歌おう! —おとなも子どもと一緒にさび	B 5	40	1,000	日本キリスト 教 団 出 版 局	4/20
リチャード・ヘイズ著 河野克也 訳	イエス・キリストの信仰 —ガラテヤ3・1-4・11の物語下部構造	A 5	518	6,500	新 教 出 版 社	4/10
富田正樹・山本真司	新 島 襄 物 語 志 —良心に向かう	A 5	72	1,200	〃	4/10
稲垣久和、佐々木炎編	キリスト教福祉 の現在と未来	A 5	158	1,600	キリスト新聞社	4/1
中 澤 秀 一	グローブから介護へ —元巨人軍選手からの転身	新書	224	1,000	ヨ ベ ル	4/20
基督教共助会九十年 記念誌編集委員会編	基督教共助会九十年 —資料編	A 5	288	1,200	〃	4/30
ルーカス・フィシャー著 吉岡契典 訳	長老職 —改革派の伝統と今日の長老職	A 5	138	2,000	一 麦 出 版 社	4/4
上 田 光 正	日本の伝道を考える2 和 解 の 福 音	A 5	202	1,500	教 文 館	5/20
東 方 敬 信	地球共生社会の神学 —「シャローム・モテル」の実現をめざして	A 5	208	2,500	〃	5/25
A.E.マクグラス著 佐柳文男 訳	憧れと歓びの人 C.S.ルイスの生涯	A 5	556	4,900	〃	5/30
山根道公 解題 広谷和文 解説	井上洋治著作選集4 わが師イエスの生涯	A 5	248	2,500	日本キリスト 教 団 出 版 局	5/20
A.J.ヘッシエル著 中村匡克 訳	新版 人間とは誰か	四六	224	2,200	〃	5/20
日本基督教団讃 美歌委員会編	こどもさんび か改訂版略解	A 5	148	1,500	〃	5/27
イヴリン・アンダーヒル著 金子麻里 訳	実践する神秘主義 —普通の人たちに贈る小さな本	四六	104	2,100	新 教 出 版 社	5/25
美尚中、和田春樹、加山久夫 / 隅谷三喜男先生召天10周 年記念講演会実行委員会編	今、なにをなすべきか —隅谷三喜男に学ぶ	A 5	88	1,000	〃	5/30
日本聖書神学校キ リスト教研究所編	礼 拝 の 詞 時 — 教 会 の	A 5	112	1,200	ヨ ベ ル	5/25
宮 村 武 夫	宮村武夫著作8 ヨハネによる手紙牧会 —その深さ、広さ、豊かさ	四六	324	1,800	〃	5/29

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区臨3-2 様ヶ川5F	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kiristokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yokohama_cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsho/	nagoya-seibunsho@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7					01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

特集 戦後70年の教会と神学2

戦後70年の教会と神学の課題。第2回は組織神学からフェミニニスト神学までを扱う。

寄稿者 芦名定道、深田未来生、中道基夫、吉谷かおる

好評連載

レヴィナスの時間論（内田樹）、宣教学

事始め（来住英俊）、Christian Icon（八木美穂子）、こはの履歴書（佐藤優）、詩篇の思想

と信仰（月本昭男）、新約釈義（青野大潮）他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

自民党改憲草案を読む

自民党改憲草案・日本国憲法付録

横田耕一著

第一線の憲法学者が自民党案を綿密に読み込み、立憲主義自体を破壊する危険な本質を徹底批判。

A5判・130頁・本体900円



〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL : 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

キリスト教本屋大賞2015のノミネート10作品が発表された。「継続は力なり」というが本屋さんには経験を重ねると、新刊が入荷されてきたときに、売れ行きを見抜く力が備わってくるのだそうだ。

書籍タイトルと装丁と概要の紹介、それに読者と出版者の間で培われた考察力が職業的直感に反応して的中率上々とのこと。私は職場にパソコンが導入されて間もない頃、グラフィックソフトの操作が上手だと言われたことがある。説明書も読まずに挑むところが、動物的勘に優れているとのことだがあまり褒められた感がしなかった。

本当はパソコン苦手意識が強い。早く扱えるようにならないければいけないと思ったのだ。

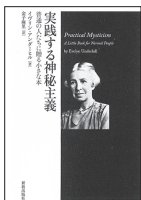
世の中がアナログ色の強いバブル時代に、『ノーライフキング』（いとうせいこう著）という本が話題になった。全国展開されている塾でつながる小学生たちが、顔も声も知らない者同

士パソコン通信を通して成績を競い合い、情報網を張り巡らせ、ノーライフキングの噂を作っていくストーリー。遠い未来のハイトクに思えた。

きっと、分かる人には分かっていたのだろう。ネット社会と言われている現在では、『ノーライフキング』の世界を飛び越えてしまっただけで、家の本棚に並んでいるのを見かけると、先を見通す力の無さを憂う。

あまり興味のないジャンルだったが、話題の本というだけで読んだ。今では、時代の変化を早く捉えようと思う苦言的な一冊になっている。

読者と出版者の間に立ち、それぞれを知るキリスト教書店が推薦する本。紹介リーフレットがお勧めコメント付きで配布されている。少しでも心留まる感を覚えたら、それは一読の価値あり。大賞はノミネート作品の中から決選投票の末に決定。九月に発表される。（吉崎）



実践する神秘主義

現代人の霊性のために
普通の人たちに贈る小さな本
イヴリン・アンダーヒル著／金子麻里訳

20世紀前半の英国の小説家・詩人にして神秘思想に関する多くの著作を著し、英国国教会で黙想会の指導者としても活躍したアンダーヒル。本書は、一般の人々にも届く言葉でキリスト教信仰の霊性を再解釈・再評価した名著であり、今なお広く読み継がれている。

◆四六判・本体2100円

共同研究

死の何が罪とされてきたのか(土井健司)
日本の自殺(李政元)、生きる価値の揺らぎに寄り添う援助者として(引土絵未)、
自殺予防と「いのちの電話」(八尾和彦)、葬儀社から見た自死の問題(安宅秀中)、
この世の光になるために教会ができること(藤藪庸二)、自死念慮者に対する牧会
ケア(榎本てる子)、自殺者の葬儀と遺族へのケア(中道基夫)、自死遺族のグリー
フケア(井出浩)、日本プロテスタント教職者と自死の歴史的考察(岩野祐介)、自
死の何が罪とされてきたのか(土井健司)。

◆四六判・本体2600円

自死と遺族とキリスト教

土井健司編

「断罪」から「慰め」へ、「禁止」から「予防」へ



人を恐れず天を仰いで

広岡浅子著

NHK連続テレビ小説「あさが来た」ヒロインのモデルの著書

著者は17歳で大阪の商家に嫁ぎ、炭鉱、銀行、保険会社等の経営に辣腕をふるい、女性実業家の先駆けとなった。女性の自立と教育にも関心を寄せ、日本女子大創設に尽力。還暦を過ぎて大阪教会で受洗。本書は『一週一信』と題して自らの剛毅な信仰観を瑞々しい筆致で綴った著書。いま百年を経て復刊。解説は影山礼子氏。

◆B6変・本体1700円

今、なにをなすべきか

隅谷三喜男に学ぶ

戦後的価値の擁護と発展のために！

姜尚中・和田春樹・加山久夫



隅谷三喜男先生召天10周年記念講演会実行委員会編

日本がアジアの中で孤立と反動化を深めつつある今、隅谷没後10年を覚え、その志を継ごうとする姜尚中氏が戦後的価値の擁護とアジア的連帯を熱く訴え、隅谷を慕う和田春樹・加山久夫両氏が応答する。

◆A5判・本体1000円

ジョナサン・エドワーズ選集3

森本あんり監修

原罪論 大久保正健訳

アメリカ精神の底流にあるもの

楽観的な啓蒙主義に対置された聖書的人間観の全貌。

◆A5判・本体7000円

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457 e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp (価格8%税込)

日本人の心情で福音を捉えるべく苦闘してきた著者の、思索の礎石

井上洋治著作選集 1 全5巻

日本とイエスの顔

山根道公 編・解説 山本芳久 解説

《日本人とキリスト教》《日本とキリスト教》という課題を担った井上神父の思想展開の出発点であり、高い評価を得た記念すべき第一作。初版にのみ収録された遠藤周作らのエッセイを再録。

◆A5判 上製・248頁・2,700円

私たちがお勧めします

一貫して、キリストその人の悲愛を説いた人
 キリスト教信仰の日本への土着化を実践した先生
 現代社会に〈たましいのやすらぎ〉を与える書

渡辺和子

ノートルダム清心学園理事長



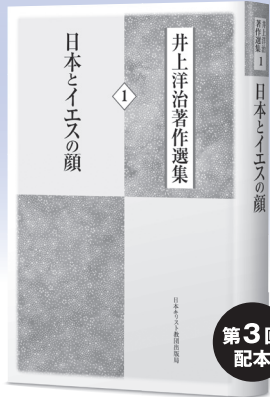
佐藤 優

作家・元外務省主任分析官



木崎さと子

作家



第3回配本

シリーズ刊行案内 各巻2,700円

- 余白の旅—思索のあと 9月刊
- キリストを運んだ男—パウロの生涯 11月刊
- わが師イエスの生涯 好評発売中
- 遺稿集「南無アッパ」の祈り 好評発売中

CD版 讚美歌21による 礼拝用オルガン曲集 全6巻

第6巻 キリスト者の生活

飯 靖子 / 志村拓生 演奏



◆39曲収録・1,944円

使用ストップと演奏のポイントが分かる音楽CDシリーズ第4弾。楽譜版に収録の全39曲を曲集の編者が演奏。

第4回

これから祈り始める方へ最適な贈り物

祈り 渡辺正男

こころを高くあげよう



◆四六判並製・112頁・1,188円

著者ならではのやさしい言葉づかいの祈り40編。祈りとは何かなどを説き明かす「祈りの生活のすすめ」も収録。